平成 21 年度 第 19 回秋季シンポジウム

「弁当箱はアジアの玉手箱 一米食と漆が育む生活の美」

当研究所恒例の秋季シンポジウム、本年は「弁当箱はアジアの玉手箱 一米食と漆が育む生活の美」というテーマで開催いたします。現・甲子園会館は、戦前より「東の帝国ホテル・西の甲子園ホテル」と並び称され、国内外の貴賓を多数お迎えいたしました。昭和初期のホテルの英文パンフレットでも昼食は「ティフィン」として紹介されています。実は「ティフィン」とは、カレーの国・インドの生活が育んだお弁当箱の名前でもあります。本年度のシンポジウムでは、日本とアジアの弁当箱を比較しながら、その魅力について探ります。

講演者

荒川 浩和氏：東京国立美術館名誉館員

森枝 卓士氏：食文化研究家・フォトジャーナリスト

吉田 美津子氏：龍野農業改良普及センター主幹兼地域課長

記

日時

2009 年 11 月 28 日（土） 13：30～17:15

場所

武庫川女子大学 甲子園会館 西ホール

参加費

無料

次第

13:00 受付開始

13:30 開会挨拶：森田 雅子（生活美学研究所）

13:40 講演 1「漆と弁当箱」荒川 浩和氏

14:30 講演 2「アジアの食文化と弁当箱」森枝 卓士氏

15:20 休憩

15:50 パネルディスカッション

参加者

荒川 浩和氏

森枝 卓士氏

吉田 美津子氏

進行

三宅正弘（生活美学研究所）

総合司会

三宅宏司（生活美学研究所）

17:15 閉会